

卒業生アンケートより（1）

平成28年3月に卒業された方々を対象に実施しましたアンケートより、自由記述部分について一部抜粋いたしました。今後の学習にご活用ください。

●レポート学習について在學生へのアドバイスがあれば教えてください。

- ・普段から社会問題に興味・関心を持ち、新聞を読むことで、視野が広がるとともに、文章作成力がつくと思う。
- ・文章にならなくとも、キーワード集めからでも手をつけること。少しずつでも進めること。
- ・気になった文章や単語はとりあえずチェックしておく。ぼんやりでも内容がつかめたら書き始める。完全じゃなくても完成したら提出する。先生のアドバイスを受ける。この繰り返し。
- ・最初から構えず、まずはテキストに基づいて作成・提出し、先生からアドバイスを受けるとよい。そのうち要領が身についてくる。
- ・スクーリングに出席して、感じたこと・考えたことをレジュメに記入。
- ・授業の一言一句を聞き逃さず良く聞く。そこにヒントがあります。
- ・スクーリング受講科目の場合、受講までにある程度レポートを仕上げしておくか、柱立てを決めておき、受講後に手直しして提出した。予習にもなり、当日の試験対策にもなった。
- ・スクーリング「科学的な見方・考え方」が役に立った。レポートの書き方を先生が教えてくれるので、早い時期に受講することをオススメする。
- ・受験対策用のコンパクトにまとめた参考書の対象ページをよく読み、全体を頭に入れてから詳しいテキストを読んでいくと、すんなりと理解できるようになった。お勧めできます。
- ・取り組む課題のテキストだけでなく、他科目のテキストと交えて読むと理解が深まり、スムーズにレポート作成にあたることができました。
- ・難しく感じた教科は、まず図書館で初心者用の分かりやすい本を数冊借りて読むことで、少しずつ理解できた。
- ・たくさんの参考文献を読み、考え方、捉え方が一方のみに偏らないように多方向の情報を取り入れ、自分なりにかみ砕くことで論ずるとよい。
- ・時間を空けて読み直したときに、違和感が残ることなく頭にすっきりと入ってくる文章に仕上げるとよいでしょう。
- ・自分が「どの時間帯に、どのような場所・方法なら効率よく取り組めるか」をできるだけ早く見極められるとよい。集中できない時は本当にただ時間がだけが過ぎていってしまう。

p. 64～68にも掲載しています。

卒業生アンケートより（2）

平成28年3月卒業生アンケートより、自由記述について一部抜粋いたしました。今後の学習にご活用ください。（p. 48にも掲載しています）

- 科目修了試験対策について在学生へのアドバイスがあれば教えてください。
 - ・何度でも挑戦することができます。まず一度試験を受けてみて、“不可”の場合もあきらめず受け続けることが重要です。
 - ・1日4科目はかなりの勉強が必要。2科目程度に絞り準備する方が効果的。
 - ・いつも思うのが、その科目の一番大事なことが試験となっている。何が大事なことなのかを見極め、勉強することが大事。
 - ・教科書を大まかに読み、大切なキーワードをメモして、全体を通して読み終えてから、キーワードをまとめる。こうすると、飽きずに、全体への概要と詳細な知識を把握できる。自分で問題をつくり、繰り返し解く。
 - ・自分が問題作成者だったら何を覚えてほしいか考え、ポイントをおさえること。テストはテクニックなので、実践へ向けた学習と離して取り組むといいと思う。この姿勢は国試対策にもつながると感じた。
 - ・返却されたレポートの見直しや、教科書を読み直すこと。
 - ・一発勝負なので、確実に答えられるくらいまで理解するよう心がけることが大切だと思う。そのためにも日々のレポート作成が力になるのだと最近になってようやく理解した。
 - ・レポート学習と同じく、時間をかけて行うべき。自分はそれほど時間をかけなかったため、納得した結果につながらなかった。
 - ・『レポート課題集』の課題をまとめ、覚えるようにした。
 - ・1点に集中して覚えるより、いくつかの事項を関連づけて説明できるように意識すると本番でも書きやすいと思う。
 - ・なるべく毎回、1科目でもどんどん試験を受ける。問題用紙をコレクトしていくと科目の出題傾向が把握でき、科目終了試験の対策が立てやすくなる。
 - ・何度か受けることで、問題傾向は分かるが、きちんと理解していないと試験の回答ができない。特に用語の説明は覚えていないと書けない。
 - ・過去問をみて勉強していたが、ある時の試験で全く勉強していなかった部分が出ました。過去問は、ある意味「やまをかける」ことであって、教科書に一通り目を通すことは大切なことだと気づきました。
 - ・科目修了試験の準備は、学習するいい機会であると捉える。

●通信教育部でのスクーリングで印象に残ったことを教えてください。

- ・全国から様々な年齢職業など背景のことなる方々と交流でき、とても刺激的だった。勉強のモチベーションの向上、維持するためにも役だった。皆さんの「想い」を知り、自分の原動力を忘れない励みとなった。
- ・オンデマンドで視聴する中でも先生方の人間的な面が垣間見え、勇気付けられる気が致しました。
- ・最初の頃はスクーリングで覚える内容が多くて授業のペースに慣れるまでが大変でしたが、先生が熱く語った学説と配付された資料を振り返ることで、それまで理解できなかった科目の内容が少しずつ頭に入るようになった。
- ・スクーリングへ参加することで、やる気のスイッチが入る気がした。
- ・以前在籍していたある通信教育部は教科書も旧字体を使っているなど、時代にそぐわず、スクーリングの開催も限定的だったため中途退学しましたが、東北福祉大通信教育部に巡り会えたことで、卒業することができました。スクーリングが身近に受講できたことが大きかったのではないかと思います。
- ・配付されるレジュメや資料などを基に、受講後に自分なりにまとめておくと、国家試験を学習するうえでの参考書代わりに役立つと思った。
- ・スクーリング資料は、レポート作成や国試対策のうえで宝のような存在でした。「社会保障論」「公的扶助論」の阿部裕二先生の資料は、とても役立った。「この資料は、印刷された段階で過去のものになる」との発言は、新しいデータは自分で積極的に収集して直しなさいと教えてくれるものだった。
- ・福祉大の授業では、いくつかの授業で先生方が大切なところや用語をゆっくり繰り返し繰り返してくれる。これがとてもよかった。「ゆっくり、はっきり、何度も繰り返す」なかでも菅原好秀先生の「福祉法学」は、ユーモアあふれる用語解説と事例で、繰り返された表現は今も耳に残っています！
- ・「社会福祉原論」の田中先生の講義は大変印象深く、なぜ自分が福祉の道へと進んでいこうとしているのかを、もう一度考えさせられるものでした。
- ・川口正義先生のスクーリングは非常に心に残るものであった。社会福祉士としてよりも人としてどうあるべきかを学んだ。
- ・赤塚先生の「福祉社会学」はとても楽しく、それでいて内容も濃く非常に印象に残っています。
- ・「社会福祉援助技術演習B」スクーリングでの関川先生の講義内容には、今までの自分が行ってきた援助がいかに甘い物であったかを思い知らされた。特に「根拠＝エビデンス」を明確にして援助を行うことが大切ということに対して感銘を受けた。そして、人に対して根拠を持って説明できて、自らの技術になるという考え方は共感を覚えた。以上の2点は現在の業務において心の拠り所になっている。

●通信教育部で学んだことはどのように役に立っていますか（社会福祉学科）。

- ・社会保障制度など改めて理解し直す機会となった。また、高齢者にとどまらず、児童・障害者分野も学べたことで見識が広がった。広い視野で、多角的に社会を捉えることができるようになったことは、仕事に限らず、生きていくうえで重要なことだと感じている。
- ・レポートにより考え方を学びました。物事を理論立てて取り組むなどが仕事上のあらゆることに役立っています。
- ・社会全体のニュースを詳細にチェックし、いかにして問題点を解決できるか否かを常に考察できる「ソーシャルワーカー頭」になりました。これからの実践で、考察した社会全体の改善案を実現できるようにしていきたいです。
- ・大学で学んだことは、最新の学術に基づいて講義されており、仕事に多に活用できた。
- ・家族、自分の生活課題への考え方、自己覚知など、離れたところから状況を見る目が養われました。相談援助の演習・実習を通じ、自分の価値観や傾向が相手とのやりとりによび影響を実感しました。何気ない日常会話や人間関係構築においても、時折意識するようになり役立っています。
- ・自分自身を含めて人を理解し、相手を受け止めることの重要性を認識できたことで60歳になって一回り成長できたように思う。
- ・現在の相談業務において、入学前より客観的に物事を考え、利用者の思い、おかれている状況、なぜそのような状況になったのか、なぜ利用者がそのように考えているのかなど、様々な視点から考えられるようになった。
- ・障害者福祉分野で仕事をしているので、制度（法律）や地域資源に関する知識や相談援助に関する知識は日々役にたっている。

●通信教育部での学びを今後どのように活かしていきたいと考えていますか（社会福祉学科）。

- ・今しばらく社会福祉の学びに努め、社会福祉士として高齢者や障害者のバックヤードとして働きたいと思います。
- ・大学で学んだ知識全般については、今後の充実した生活、子どもへのしつけや教育の糧としたいし、できると考えている。
- ・社会福祉活動の中で、当事者への支援はネットワーク、チームアプローチを通して、当事者の望む方向性での問題解決を図っていきたい。
- ・職場での人との関わりのみならず、社会福祉を必要としているすべての人に対して活かしていきたいです。
- ・生活問題を抱えるあらゆる領域の人たちが、その人らしい自己実現ができるようにアクションしていきたいです。当面は、勤務先における、脳性マヒの

重度障害者の利用者の皆さんの自己実現のお手伝いです。

- ・実習先で、事務兼支援員として就職内定をいただき、平成28年4月より働く予定です。いつか相談員として働けることを目指し、利用者、職員、地域の方々との関係づくりを大切にしていきたいと思います。
- ・最初の目標通り、卒業→社会福祉士国家資格→スクールソーシャルワーカーの道を歩むことができそうです。早速、県教委からSSWの依頼が来ました。教育と福祉をつなぐ活動をしていきたいと思っています。
- ・現在の仕事である社協ソーシャルワーカーの業務に、知識・技術・倫理のすべてを備えた、相手の立場に立った相談援助技術を実践していきたい。
- ・演習系のスクーリングで繰り返し学んだジェネラリストとしての視点、スペシャリストとしての視点に留意して、環境も特性も異なる個人への適切な支援へとつなげたい。
- ・これまでの学習によって、利用者の視点に立った考え方だけでなく、地方自治体が運用する社会政策や福祉事業の経営のあり方に大きな課題があると感じました。今後は福祉事業の経営や利用者を悩ませるお金の問題に関する知識を勉強して、問題を表面だけでなくもっと掘り下げて解決できる総合的な能力を身につけていきたいです。

●通信教育部で学んだ感想や在学生へのメッセージをお願いします。

- ・“やってみよう”や“挑戦したい”という気持ちを今後も大切にしていきたいです。その気持ちを持つことが大切であると学んだ2年間でした。
- ・様々な方にお会いしたことは今後の糧になると思っています。確かにレポート作成や国家試験の勉強等、孤独なこともありましたが、どれもこれも私にとっては大きな経験です。2年間支えてくれたあらゆる方に“ありがとう”と思えるのは、ある意味頑張ってきた自分自身に向けてのものかもしれないと今思います。
- ・通学生とは違い、働きながら学ぶことは大変ですが、有意義な時間であることは間違いありません。途中で諦めないで楽しむ余裕を持って取り組んでください。せっかく決心したことですから、後悔することがないように、自分のペースで学んでください。
- ・スクーリングに出席してください。そして、仲間を見つけてください。仲間がいることで頑張れます。レポートの進捗状況を仲間たちと確認することで、いい刺激となり尻を叩かれていきました。
- ・年齢・職業・地域様々な同級生と関係を築くことができました。これは先生方や職員の皆様のサポートや工夫のお陰です。通信教育部での学習を通じ、「人生はいろんな歩み方がある」こと、「福祉は支援者自身の生活が安定して

いなければ、よりよい支援はできない」ことを実感しました。

- ・なぜ社会福祉士なのか？どうして必要なのか？それらをより深く、たくさん考えることができた。講師の先生たちもおもしろく、楽しい講義がたくさんありました。
- ・在学中のレポート作成中は長く感じたが、終わってみると3年間はとても短く、有意義であったことに気づいた。60歳で大学に入り、このような人生もあるのだと自分に自信がついた。
- ・入学当初、レポートをどう進めていいかわからない時に、事務局より連絡をいただき励ましていただいたのが思い出深いです。スクーリング時に、情報共有しながら、文献の探し方やレポートの書き方への理解を深めることができ、通信生であっても顔を合わせることが学びに大変重要であると思っています。レポートが卒業ぎりぎりでしたが、履修状況の送付、ネット検索で自分の状況把握に役立ちました。
- ・レポートの提出がまだだったため、演習を諦めていたところ、仕事帰りに事務局から「演習Aを受けませんか」という電話をいただき、頑張ることができた。今でも、その電話がかかってくる場所を通ると思い出す。4年間、本当にお世話になり、感謝している。
- ・自分の不注意で、2年で卒業のつもりが3年半かかってしまいました。反省すべき点も多くありましたが、無事に卒業できてよかったです。電話でも対面でも、職員の方々には丁寧に関わっていただき、大変お世話になりました。先生方の授業、指導はもちろんのことですが、『With』やメールを通しての励ましての言葉にいつも力づけられていたように思います。
- ・将来、社会福祉士として相談援助業務に就きたいと考えて、通信教育部での学びを決意したが、利用者の特性もニーズも多種多様であること、それゆえ、相談援助における自分の「引き出し」も多く作らなければと考えるようになった。そこで私が実践しているのが新聞の「人生案内」という人生相談コーナーに毎日、目を通すこと。相談者のあらゆる悩みのお便りに、作家などが答えているのだが、その返事の部分にいつも「こんなうまい返し方、言葉選びがあるんだ」と驚かされる。これらを参考にして、自分の幅を広げられたら、それが利用者の救いになることがあるかもしれない。
- ・通信教育部での学習を通じ、「人生はいろんな歩み方がある」こと、「福祉は支援者自身の生活が安定していなければ、よりよい支援はできない」ことを実感しました。
- ・不意に、職員の方々、何時に帰っているんだろうと感ずることがありました。そう思うほど身近な存在でした。在学生の方、悩みは伝えることで解消します。たくさん頼って、実りある学生生活を送ってください。